

2019年4月1日

2018年度日露青年交流事業
ウラジオストク将棋チェス・文化交流プログラム実施報告

日本将棋連盟東京都支部連合会
副会長 北 昌宏

日本将棋連盟東京都支部連合会としては、この度、日露青年交流センター様のご支援を頂き、日露青年交流事業として2019年3月23日から3月28日まで添付の日程にてロシア連邦ウラジオストク市にて日露学生による将棋チェス・文化交流を実施することができました。プログラムには日本将棋連盟からも門倉啓太五段に参加頂きました。皆様のご協力を得られて無事終了することができました。

プログラム期間中は、日本将棋連盟様、将棋を世界に広める会様、ウラジオストクチェス連盟様、ウラジオストク子供宮殿様、ウラジオストク国立経済サービス大学内東洋芸術学習センター様、ウラジオストク日本国総領事館様、極東連邦大学様、沿海地方水族館様、他には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回のプログラムには下記の15名の方々に参加頂きました。(敬称略)

	氏名	性別	所属
1	北 昌宏	M	日本将棋連盟東京都支部連合会 (団長)
2	門倉 啓太	M	公益社団法人日本将棋連盟 棋士五段
3	杉浦 正樹	M	日本将棋連盟東京都支部連合会幹事 (副団長)
4	山上 紘生	M	慶應義塾大学経済学部経済学科
5	壁谷 航大	M	慶應義塾大学商学部商学科
6	岩城 貴志	M	早稲田大学政治経済学部経済学科
7	武田 淳志	M	早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科
8	兵藤 大介	M	東京外国語大学国際社会学部
9	西岡 政成	M	上智大学総合人間科学部社会福祉学科
10	村安 滯乃	F	上智大学外国語学部ロシア語学科
11	井上 貴裕	M	放送大学教養学部選科履修生
12	馬場 匠	M	電気通信大学大学院情報理工学研究科
13	平尾 聡至	M	大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻
14	白河原 拓実	M	神戸大学工学部応用化学科
15	中谷 純子	F	山陽特殊製鋼株式会社

総括：今回のプログラムの実施を総括すると、

- ① 準備期間が短く文化交流の項目につき出発前には十分検討できていない点もあったが、マトリョーシカの絵付け体験、スラブ文字の書法体験（漢字とスラブ文字を合わせた作品の完成）を通じて、日本では味わえない異文化に触れる体験が出来、非常に収穫があったと言える。
- ② 消しゴムを利用した落款作成については、ロシア人にとっても稀有な体験であったせいか、日露の学生双方が真剣に作業に励んでいた。最初、折り紙のワークショップも提案したが、落款づくりの方がより興味があるという事で、落款作成を主体に取り上げた。
- ③ 極東連邦大学で行われている日本語教育の授業に参加できたことは、非常に勉強になった。ロシアの学生の真剣さ、実践的なカリキュラムには日本の語学教育の現場でも見習う点が多いと感じた。
- ④ 日露の学生が真剣にかつ友好的にチェス・将棋を競技する事が出来た点では非常に交流の成果があがったと言える。特に日露ペアを組んでの熱戦には時間のたつのも忘れるほどであった。門倉五段には駒の動かし方という初歩的なレベルから将棋の指導を行って頂いたが、日ごとに技量が向上するには驚かされた。逆に日本の学生もチェスという競技の奥深さを知ることができ、ロシアの国技であるチェスのついての理解を深める事が出来た点、意義があったと言える。個人的にもチェスの風変わりなルール・競技時間の加算方法に興味を持った。
- ⑤ プログラム期間中に行われた沿海州のチェスの大会に日本の学生も参加させて頂き、真剣勝負を体験できた。チェスについては、各々の対局者自身が指した手順を記録に取り対局終了後にお互い結果を確認していたが、この点が将棋の対局と大きく違う点であり試合方法も合理的であると感じた。
- ⑥ 移動に際しては一部市内バスを利用したが、ウラジオストク市民の一般的な生活に触れる事が出来て貴重な体験であった。また横断歩道の信号の変わる速度には驚いた。10秒ほどで青から赤に！ロシア人の歩く速度の速さは、信号の変わる速度の影響ではないかと内心思った。
- ⑦ 一番の収穫は、ウラジオストクの受け入れ側の方々と非常に仲良く食事をしたり、会話したり行動を共にすることでお互いの理解を深め、親密になったことであると言える。ロシア料理、ジョージア料理、海鮮料理を共に楽しみ、食についても見聞を広める事が出来たことは日本の学生にとっても貴重な体験であったと思われる。反省点としてはロシア語をもう少し勉強しておくべきだったと・・後悔先に立たず。
- ⑧ 今回の訪問を通じ全体として交流の成果が大いに上がったと思われるので、今後も交流の機会を拡げて行きたいと思う。こうした交流が日露の友好関係につながることを祈念しています。

最後に、当会としては、今後、こうした交流の機会を継続して行く事が重要な課題と考えますので、関係各位の一層のご支援を宜しくお願い致します。

以上

ウラジオストクチェス連盟のステファノフ会長には東京都将棋支部連合会より記念のトロフィーが贈呈されました。



以下は、プログラムの日程に沿った写真です。ご参照頂ければ幸いです。

① ウラジオストック空港到着。

成田から2時間ほどの距離ですから全員それほど疲れていません。



② ウラジオチェス連盟の方が判り易いプラカードを持って出迎えてくれました。



③ マトリョーシカ絵付け体験

得難い体験でした。最初はどうかと思いましたが、講師の女性にも手伝ってもらってそれなりに仕上がりました。とても楽しかったです。



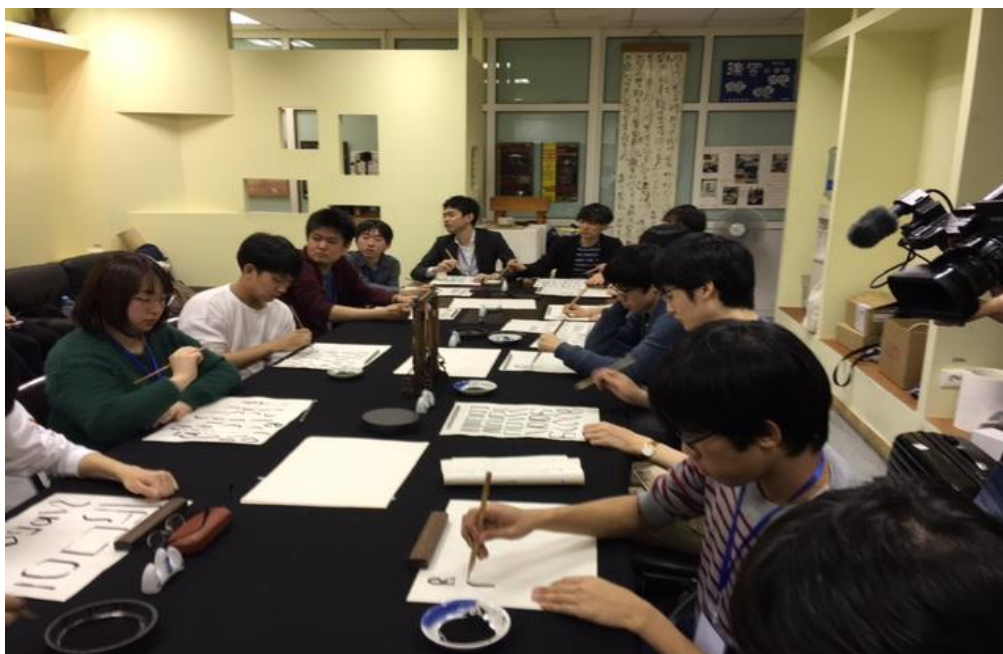
④ 沿海州チェストーナメント

参加者は、全員真剣です。日本人も大会に参加させて頂きました。結果は、添付の表を参考下さい。



⑤ スラブ文字の書道体験です。

漢字とスラブ文字を一枚の紙に書いて東洋芸術センターの落款を押ししてもらい出来上がりです。現地のテレビ局も撮影に来ました。



⑥ 作成した消しゴム落款を手にとって参加者全員での集合写真です。



⑦ 門倉五段による将棋の指導対局です。皆様真剣です。



⑧ チェス対局です。お互い記録を取りながら対局します。記録の仕方が判らない場合は相手に教えてもらいながら記録します。



⑨ 日本国総領事館での集合写真です。中村総領事様とも気軽に懇談させて頂きました。



⑩ 日露青年同士でペアを組んでの将棋対局です。



⑪ 極東連邦大学で日本語の授業を視察させて頂きました。

1、2年生のクラスでしたが、様々な教材を使っての実践的な講義でした。



⑫ 沿海地方水族館を視察しました。様々な海洋生物が特殊水槽内で生息し、展示物も多く、思った以上に館内は広かったです。熱帯雨林の植物も館内で見学できました。白イルカ、あしかのショーが売り物です。



⑨ 最終日の夕食会の様子です。

キエフカツレツとビーフストロガノフがメインでした。少々ウオッカも。



⑩ これでウラジオストクともお別れです。

